

会派研修報告書

大崎市議会 政務活動概要報告書

令和4年11月1日 提出

1. 研修概要

会派名	大志会
参加者名	相澤久義・富田文志・関武徳
日時	令和4年10月11日(火)、12(水)、13(木)(3日間)
研修先	滋賀県大津市唐崎2丁目13番1号 全国市町村国際文化研修所(宿泊型研修)
出席者	①新潟大学副学長・経済学部教授 宍戸 邦久 ②福井県大野市長 石山 志保 ③千葉大学大学院社会科学研究院教授 板倉 秀史 ④明治大学政治経済学部教授 木寺 元

2. 研修内容

研修項目	研修目的 人口減少社会における議会の役割 1) 地方行政を取り巻く現状と2040年頃にかけて顕在化する諸課題について 2) 講義・演習を通じて、人口減少社会を見据えた今後の施策について 3) 人口減少社会における議員としての役割や議会の本来のあり方について
研修項目	開講・入寮オリエンテーション 12:30～ ①地方行政の現状と課題 ～2040年を見据えて～ 13:00～15:15(講義) 新潟大学副学長・経済学部教授 宍戸 邦久 ②過疎地域の持続可能なまちづくりを目指して 15:30～17:00(講義) 福井県大野市長 石山 志保 ③わがまちのありたい姿(ビジョン)を考える 9:25～17:00(講義・演習・講評・まとめ) 千葉大学大学院社会科学研究院教授 板倉 秀史 ④人口減少社会における議会の役割 9:25～12:00(講義) 明治大学政治経済学部教授 木寺 元 閉講 12:00～ 以上が、3日間研修コースの概要です。北は北海道から南は鹿児島県まで、全国から80名の参加で行われました。研修時間中は授業時間ということで写真撮影も許可されないことから、休憩中のわずかな時間での撮影になり、報告に添付する写真数が少なくなりました。 それぞれの分野で専門的に活動している先生方の講義には、現状の分析に感心させ

	<p>られたり、それを踏まえての今後の課題の整理や取り組みの留意点など、これからの自治体や議会の在り方、議員の役割などを改めて学ぶ機会になり、有意義な時間となりました。</p> <p>また、福井県大野市 石山志保市長の講義では、大崎市とほぼ同程度の面積を抱えているが人口は約 31,000 人、人口減少に直面している中での取り組みとして、国で提唱している「デジタル田園都市国家構想の実現」に向けて、人口減少時代の働き手・担い手不足をデジタル化で解決するための、各施策の構築と推進策を学びました。</p> <p>二日目は、地域の未来予測に基づく政策立案をテーマに、千葉大学大学院の板倉秀史先生の「気づきのための予測」。自治体がこのままの状態では 2050 年まで続いたらどうなるのかの予測を「未来カルテ」として発行している活動の取り組みと経過を、参加者が 21 の班に分かれて、例示された自治体の「未来カルテ」に基づいて、現状を分析して課題を拾い上げたうえで、解決に向けた取り組みを考えていくワークショップを行いました。</p> <p>大崎市から3名参加していることから、大崎市の「未来カルテ」が演習自治体の一つに選ばれて、21班に分かれた参加者の皆さんに、宮城県大崎市のアピールができたと思います。また、産業経済部に準備してもらい、大崎市の観光案内や世界農業遺産等のパンフレットを参加者のみなさんにお渡しすることができました。</p> <p>閉講式では受講証明書をいただき、改めて大崎市の未来に向けての活動を誓いました。</p> <p>詳細は別紙資料を添付しますが、今回の研修に参加し、人口減少化対策の間口の広さと奥の深さを改めて認識する良い機会になりました。</p> <p>以上、会派の行政報告と致します。</p>
他会派との合同実施	・ <input checked="" type="checkbox"/> 無　・有（会派名： ）